

福岡鉄骨協議会

福岡市の都市開発を学ぶ

新しい実大実験施設も紹介

福岡県建築鉄骨協議会（会長＝堺純一・福岡大学教授）は5月20日、福岡市博多区のオリエンタルホテル博多ステーションで定例会を開催し、福岡市の都市開発と新しい実大実験施設をテーマに勉強会を開いた。

福岡市の都市開発については、小川直人・福岡市住宅都市局都心創生部都心創生課都心プロジェクト推進係長が「天神ビッグバン・

博多コネクティッドの概要について」をテーマに講演。2005年の福岡市西方沖地震により災害リスクが顕在化した都心部の建物の建て替えが進まないことから、国家戦略特区のスキームの中でエリア単位で高さ制限を緩和、さらに新規建設物の条件により容積率の緩和にも注力したことを解説した。

新しい実大実験施設につ

いては、東京工業大学の吉敷祥一・科学技術創生研究院教授が「E-Isolation建設時における実験と完成後のパイロット試験」をテーマに話した。

E-Isolationは兵庫県三木市に東京工業大学が建設した免震部材・制震部材の実験施設。

福岡市の都市開発など学ぶ



吉敷教授は大型建築物が増える中で免震・制振部材も大型化しているものの、実物大で検証できる装置は国内になく、さらに精度の高い計測結果が瞬時に得られる世界初の実大免震試験機と説明。パイロット試験として実施した免震積層ゴムの性能と耐久性実験の結果を紹介した。